

高難易度素材衣料の 品質安定製造と短納期に対応

TKF 株式会社東京ファッション

事業テーマ ▶ 高難度素材の可縫製と若年作業者に対応する設備と安定品質を実現

◆メーカーの要望に応え続けることで信頼を得る

近年の国内アパレル市場において、日本製品を目にするのは少なくなってきている。特にショッピングモールやファッションビルなどで扱われる商品については、低コストを武器とする海外生産品に価格面で対抗することができず、多くの国内縫製工場が姿を消していった。日本繊維輸入組合の統計によれば、平成27年度の国内で流通する製品の実に約97%以上が海外生産という驚くべき結果となっている。

そんな状況にあってコートやジャケットなどの重衣料からワンピース、ブラウス、スカートなどの中軽衣料までを、国内の自社工場で一貫生産しているのが、巨理町と福島県南相馬市に工場を構える株式会社東京ファッションだ。

「当時は当社も同様の問題を抱えていました。東京都葛飾区で創業し、仕事の増加に伴って南相馬、巨理と工場を新設してきましたが、取引先も段々と海外生産にシフトするようになったので、25年ほど前から百貨店などが扱う高級品に特化することで解決を目指しました。しかし、高級品にふさわしい品質を達成するためには、高い技術力と設備投資が求められるため、転換期にはずいぶんと苦労も伴いました」と代表取締役社長の綾辺裕一氏は当時を振り返る。元々同社では、ショッピングモールなどで扱うウールコートを中心とした重衣料をメインに製造してきたが、百貨店メインのアパレルメーカーと取り組むため、設備投資と技術力向上により、取引先の信頼を得られたことで、さまざまな素材の商品製造依頼がくることになり、現在は重衣料から中軽衣料までの高級衣料品を広く手がけている。特に薄くて軽いストレッチ素材などを使用した製造には評価が高く、売上げの多くは中軽衣料が占めている。



◆高難易度素材に対応すべく最新設備導入を決断

「最近増えてきているのが、薄い素材や伸びるストレッチ素材などの加工縫製の難しい素材です。これまでは設備更新や調整などによって何とか対応してきましたが、素材ごとにマシン調整が必要であったりと時間的ロスが大きい。また、近年の高難易度素材(難素材)の縫製は、技術的にも時間的にも非常に難しいため、断らざるを得ない案件も発生していました。せっかく素材メーカーが開発しても、縫製が難しく製品化されない素材があるのも、実にもったいない話だと思っていました」。

今後さらに増える難素材に対応するためには、ここで思い切った最新設備の導入が不可欠と判断。また、近年のトレンドである小ロット・短納期など時代の変化にも対応する必要性も高まっていた。社内では新たな設備投資は難しいという声もあったが、ものづくり補助金を活用することで実施することが可能となった。

◆生産効率向上で小ロット短納期にも対応可能に

新たな設備の導入により、これまでは技術的に難しく、また大幅に時間が掛かっていた難素材の縫い合わせを、短時間で仕上げる事が可能となった。特に伸びるストレッチ素材については、素材が伸びても縫い合わせたところが切れないように環縫いを多用した仕立てができるようになったり、ほかにも縫製前の段階であるパーツをプログラムマシンで縫うため、マシンアタッチメントの型をCADデータよりレーザー加工機で作製しプログラムマシンによって半自動化を実現させたことで品質の安定化と作業効率の向上を図ることができた。



重衣料から中軽衣料まで自社向上で一貫生産



「この設備なら経験の浅い若年スタッフでも正確な縫製を行えるので、難素材を使用した製品でも高い品質での生産が可能になりました。機械の調整時間も少ないので、小ロット・短納期への対応が可能となったことも大きいです」。

機械による自動化が進んでも、作業手順など縫製作業には必ず人の手が入り、そこで熟練者と若年者の作業に差がでる。そのため、同社ではデジタル作業分析ソフトも導入。熟練者と若年者の技術継承と作業の一定化を図り、成果を挙げている。

◆自動化推進で作業効率向上と人材育成に注力

ここ数年、難素材を加工縫製した高品質の日本製品が見直され、国内生産に転換するメーカーも増えてきた。しかし、人材と設備を最小限にまで切り詰めた国内縫製工場にとっては、増産体制を図れる状況にはなっていない。

「国内生産を検討するメーカーの多くは高級品を扱っていますので、大ロットではなく小ロット・短納期を求めています。そのためには高い技術力と機動力が必要です。縫製作業には必ず人の手が入りますので、作業の均一と効率それと高品質を図らなければなりません。今回の事業によって、その両方を前進することができたと考えています」。

同社では、経験の浅いスタッフでも自動化による作業効率のさらなる向上と人材育成に注力し、高品質な各種製品を世に送り出すことで、人びとに笑顔で満足していただけるファッションライフの提案と雇用による地域貢献を目指す。最近では小ロットのTシャツプリントにも着手。個人のお客様にもご対応させて頂くことで、多くの人たちにファッションを楽しんでもらえるよう奮闘中だ。

会社概要

会 社 名	株式会社東京ファッション
代 表 者	代表取締役社長 綾辺 裕一
所 在 地	宮城県巨理郡巨理町字裏城戸22(巨理工場)
資 本 金	1,000万円
従 業 員 数	68名(巨理工場) 56名(原町工場)
業 種	製造業
設立年月日	昭和43年3月
TEL	0223-34-7878
FAX	0223-34-7879
EMAIL	tkf-wfactory@arrow.ocn.ne.jp
URL	http://tokyofashion-womens.urdr.weblife.me



高い技術と若い力で常にチャレンジを

当社では早くからCAD・CAMを活用するなど常に一歩先を行くことで取引先の要求に応え続け、信頼を勝ち取ってきました。その過程で積み重ねてきた技術も当社の強みになっています。難素材や難仕様のデザインものを一貫生産することで高い評価をいただいております。

また、一般的に縫製工場では高齢化が進んでいますが、当社では若年層が多いのも特徴。巨理工場の従業員の平均年齢は28歳です。若い人が多く働いていることは、新しい刺激にも繋がりますから、アパレル業界に関わる企業としても大切なことだと思います。そこで、工場内部をリニューアルしたり、ベレー帽のユニフォームを採用するなど、若い人が働きやすい環境を整備することにも力を入れています。ヤル気に溢れた元気のいい従業員が多いので、彼らの成長を見るのも楽しみの一つですね。



代表取締役社長／綾辺 裕一 氏